

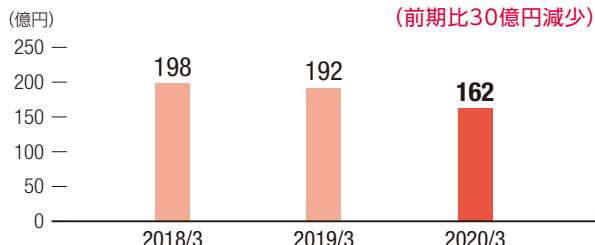
財務ハイライト

収益性の状況

経常利益(連結)

162億円

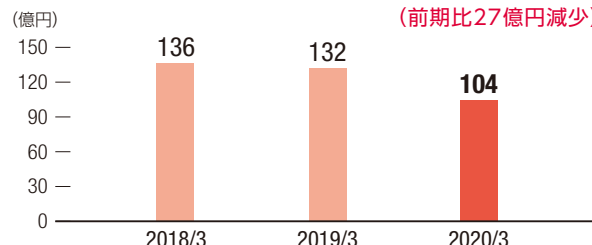
(前期比30億円減少)



親会社株主に帰属する
当期純利益(連結)

104億円

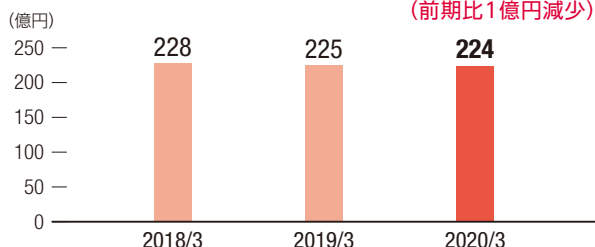
(前期比27億円減少)



コア業務純益(単体)
(本業における純粋な利益)

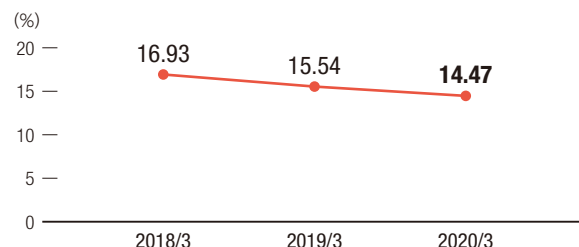
224億円

(前期比1億円減少)



非金利収益比率(連結)

14.47%

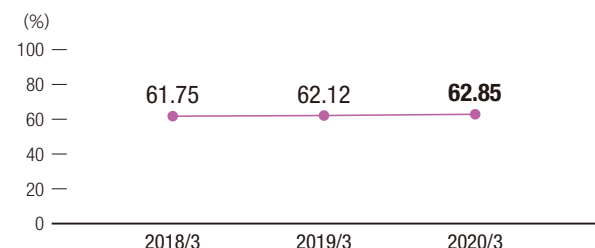


※(役員取引等利益+その他業務利益(債券関係損益を除く)) / 連結コア業務粗利益

効率性の状況

OHR(単体)

62.85%

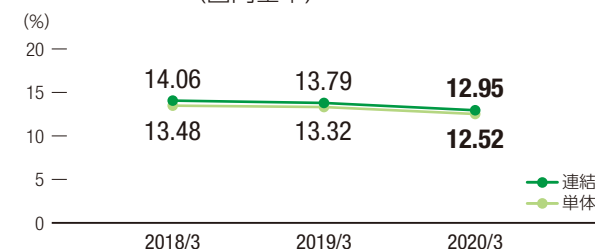


※経費 / コア業務粗利益

安全性・健全性の状況

自己資本比率

単体ベース **12.52%**
(国内基準)



●自己資本比率

銀行の健全性を測る代表的な指標の一つです。国内基準は4%以上を維持することが求められています。

格付(単体)

A3

(長期預金格付)

ムーディーズ・ジャパン(株)(Moody's)

A+

(発行体格付)

株格付投資情報センター(R&I)

AA-

(長期発行体格付)

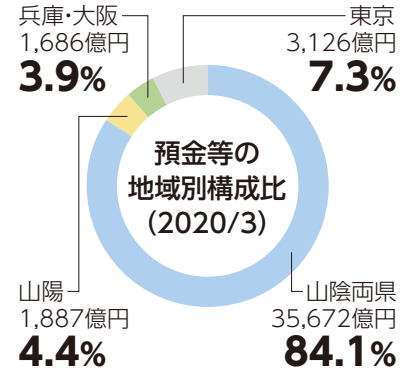
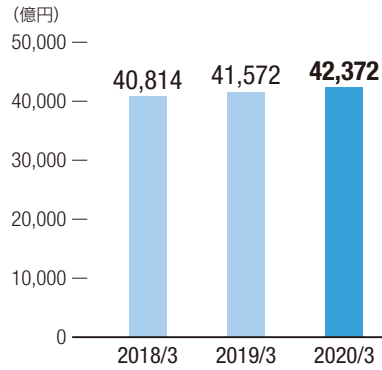
株日本格付研究所(JCR)

主要勘定の状況(単体)

預金等* (期末残高) ※預金+譲渡性預金

4兆2,372億円
(前期末比799億円増加)

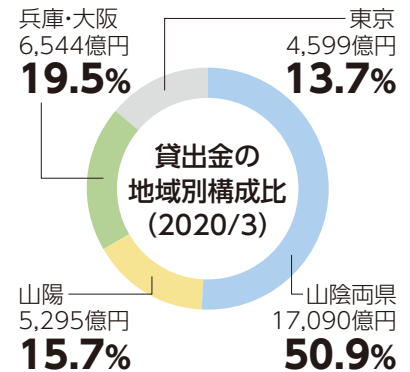
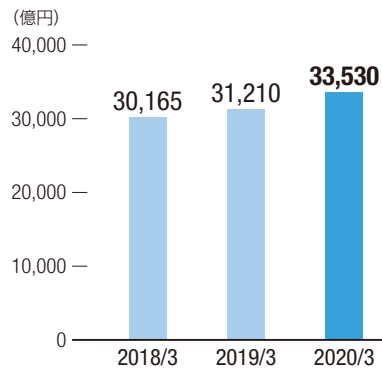
公金預金や金融機関預金および譲渡性預金が減少した一方で、個人預金や法人預金が増加したことにより、期末残高は前期末比799億円増加の4兆2,372億円となりました。



貸出金(期末残高)

3兆3,530億円
(前期末比2,320億円増加)

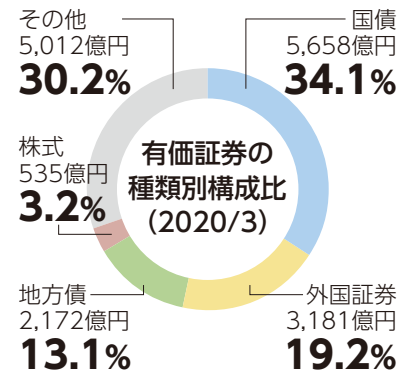
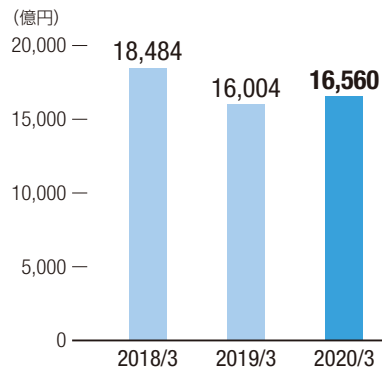
山陰両県を中心に住宅ローンなどの個人向け貸出が増加したほか、法人向け貸出も山陽地区、兵庫・大阪および東京地区で増加したことなどから、期末残高は前期末比2,320億円増加の3兆3,530億円となりました。



有価証券(期末残高)

1兆6,560億円
(前期末比555億円増加)

日本国債への再投資が難しいなかで、リスクを見極めながら投資を行った結果、期末残高は前期末比555億円増加の1兆6,560億円となりました。

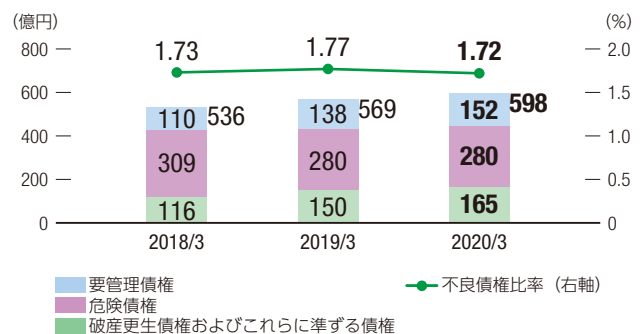


●格付

企業の信用度や安全性を示す代表的な指標で、預金や債券などの元利金が約定どおりに支払われるかどうかを公正な第三者機関が客観的に評価し、その程度を簡単な記号で表したものです。

不良債権の状況(単体)

不良債権比率 **1.72%**



※金融再生法に基づく開示債権